

EU Indicators

欧州経済指標コメント：3月ユーロ圏PMI・ドイツIfo

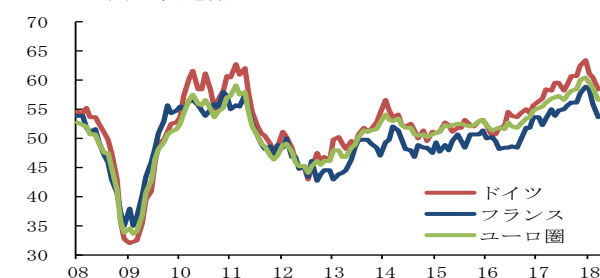
発表日：2018年3月22日(木)

～オーバーシュートからの減速が続く～

第一生命経済研究所 経済調査部
 首席エコノミスト 田中 理
 03-5221-4527

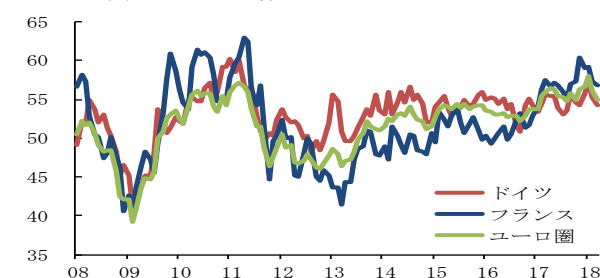
- 3月のユーロ圏のPMI総合指数（速報値）は2ヶ月連続で改善モメンタムが鈍化し、昨年1月以来の水準に低下した。引き続き高水準を維持しているものの、過去2ヶ月で3.5ポイント超の低下幅は過去に数えるほど。業種別の内訳は、昨年12月に過去最高を記録した製造業のモメンタムが3ヶ月連続で鈍化したほか、1月に約10年半振りの高水準を記録したサービス業も2ヶ月連続で低下。
- 製造業PMIの内訳は、指数を構成する5項目（生産、受注、雇用、在庫、入荷遅延）全ての改善モメンタムが鈍化。なかでも生産と新規受注の落ち込みが大きい。雇用の増加ペースが4ヶ月連続で鈍ったが、入荷遅延の状況からは供給制約が企業活動を阻害している面もある。
- 同日発表された3月のドイツのIfo企業景況感指数は2ヶ月連続で低下。内訳は、現状判断が歴史的な高水準にあるが2ヶ月連続で低下した一方、先行き判断が4ヶ月連続で落ち込み、昨年1月以来の水準に低下した。業種別の先行きの業況判断（ゼロが分岐点）は、小売業が6ヶ月振りにマイナス圏に転落、製造業と卸売業のプラス幅が縮小、建設業がやや改善した。また、同時に発表されたサービス業の先行きの業況判断は、3ヶ月連続でプラス幅が縮小。
- このように各種の企業景況感はやや軒並み、昨年末から本年初をピークに明確な鈍化傾向にある。減速の一部は北欧諸国での悪天候や供給制約が影響した面もあるが、輸出受注の落ち込みが顕著なことから、世界景気の減速とユーロ高基調が業況改善の重石となっていることが示唆される。このまま景気が後退局面入りする可能性は今のところ低いが、減速の角度が急なだけに気懸かりなところ。

■ユーロ圏：製造業PMI



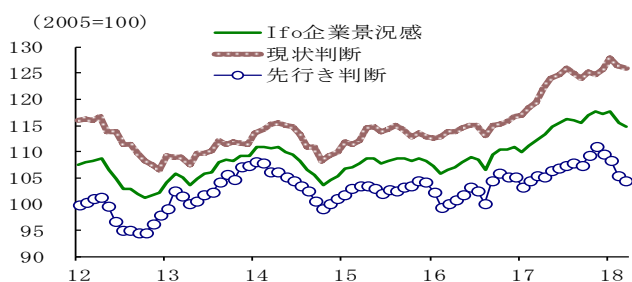
出所：IHS Markit

■ユーロ圏：サービス業PMI



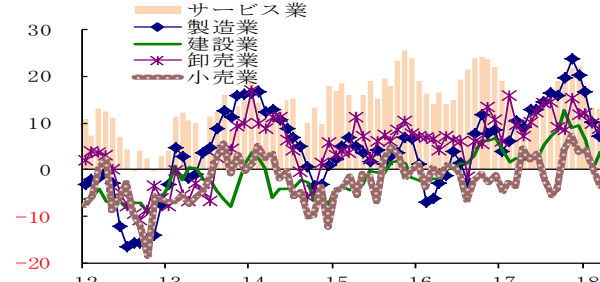
出所：IHS Markit

■ドイツ：Ifo企業景況感



出所：Ifo

■ドイツ：業種別の先行きの業況判断



出所：Ifo

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。